

# 会 議 録

## 1 会議名

第10回大潟区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ・報告事項（公開）

（1）事務事業評価の結果について

### ・協議事項（公開）

（1）自主的審議事項について

## 3 開催日時

平成31年3月19日（火）午後6時30分から午後8時55分まで

## 4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 中会議室2

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：石田浩二、梅木英亮、金澤幸彦、君波豊、後藤紀一、小山茂、佐藤忠治、新保正雄、内藤恒、中嶋浩、細井義久、柳澤周治、山田幸作、山本宏  
（16名中14名出席）

・事務局：鍵田大潟区総合事務所長、佐々木次長（総務・地域振興グループ長兼務）、平山市民生活・福祉グループ長、石川教育・文化グループ長、朝日総務・地域振興グループ班長、水澤総務・地域振興グループ主任

## 8 発言の内容（要旨）

### 【佐々木次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：君波豊副会長に依頼

【佐々木次長】

協議事項に入る。これより会長が議長を務める。

【佐藤忠治会長】

それでは、報告事項（１）事務事業評価の結果について、事務局から説明してもらおう。

【佐々木次長】

配付資料について説明。

【佐藤忠治会長】

事務局から説明してもらったが、具体的には来月の第１回地域協議会で行政改革推進課が説明に来るとのことである。皆さんから意見、質問はあるか。

【柳澤周治委員】

来月の地域協議会での説明は、大潟区に関連する部分の説明か。

【佐々木次長】

全体の説明である。

【柳澤周治委員】

先ほどの次長の話では、行政内部での判断で決定事項ではないとの説明であったが、今後どのように決定していくのか。市議会との関係もあると思うが、実際に地域の意見を集約していくという手法が取られるのか。

【佐々木次長】

４月２５日の地域協議会に行政改革推進課の担当者が詳しい説明をさせていただく。その時に、皆さんから整理していただいた質問を投げさせていただき、質疑応答をさせていただきたい。

【柳澤周治委員】

質疑応答はそれでいいが、それで意見を聞いたという事になるのか。

【佐々木次長】

その機会に意見等も聞かせていただく。

【柳澤周治委員】

それは委員個別の意見である。大潟区全体の意思をどこかで決定し、行政改革推進課に伝えて進めていくのであればいいが、個別の委員の質問や意見に対して回答するだけでは、大潟区の話聞いたという事にはならないと思う。

【佐々木次長】

やり取りをさせていただく中で、個人の意見であっても、大潟区地域協議会の意見として挙げようとしてご審議いただければ行政に挙げることも可能である。

【柳澤周治委員】

そうすると基本的なスタンスとして、行政として最終決定みたいなものは、この1年間をかけてやるという事なのか。

【佐々木次長】

1年というのは少し早いかもしれないが、やり取りをする中で予算も関係するかたちにもなるため、それを反映する意味でも皆様から揉んでいただいて、大潟区ではこのようにしたほうが良いという意見があれば、地域協議会の意思として挙げていただくことは可能である。

【柳澤周治委員】

基本的には、第6次上越市行政改革推進計画の実施期間の範囲の中で決めていくと理解してよいか。予算は年度ごとに付くが、この期間の中で決まったものはその年度ごとにやっていくスタイルで、最終的に3年後には全部決めるということか。

【佐々木次長】

そうである。

【柳澤周治委員】

大潟区に関係するもので、地域振興事業の中にかっぱ祭りなどがある。「地域振興事業について、補助金に関する基本方針では補助率を原則5割としているが、多くの事業が

7割となっていることから、各事業の地域振興への寄与度を勘案し、補助率の見直しを検討する。」となっているが、実際に今、かっぱ祭りの補助金は7割になっているのか。

**【佐々木次長】**

平成30年度は、補助対象経費が522万円ほどである。その内、350万円が市からの補助金ということで補助割合が67パーセントである。「夢大地おおがた」については、補助対象経費が88万6千円であり、市からの補助金が22万円である。補助割合は25パーセントとなっている。

補助金に関する基本方針では補助率が原則5割となっているが、かっぱ祭りは7割近くになっている。そういった事業を、地域振興への寄与度を勘案して補助率の見直しを検討していこうという案が示された。

**【柳澤周治委員】**

今は66パーセントかもしれないが、合併当初は、500万円必要であれば、500万円出ていたと思う。そこから6割になって、さらに5割になる。それは事業を縮小しろと言っているのと同じことである。それを行政が机の上で判断しただけの結果である。それについては地域協議会としても、どのくらい経費がかかって、どのように活性化に寄与しているかという判断からものを申していく必要があると思う。特に正副会長においてはしっかり進め方を考えてもらいたい。地域協議会としての統一した意見を集約して、市に対して言っていく必要があると思う。そういう場をきちんと設けるべきだと思う。総合事務所も個々の意見を聞いたから終わったという事の無いように配慮していただきたい。

**【君波豊副会長】**

私も問題があると感じた。例えば、率の出し方であるが、総額が例えば700万円だとしたときに、そのうち補助金の350万円が70パーセントに相当すると言っているが、全体の中では寄付金を求めたり、各戸から500円ずつ集めたりしながら予算規模が760万円とか770万円になっているわけである。それを補助金350万円で割って70パーセントくらいだとか、そういう出し方はおかしいと思う。むしろ地域振興費

全体をみて、配分割合を今までの実績により何パーセントを補助するといった考え方な  
らいいが、実績をみて、その中にある金額は寄付金を求めたり、負担金で賄ったりして  
いるわけであるから違和感がある。

【柳澤周治委員】

それは意見である。

【君波豊副会長】

率の出し方がそれでいいのかと感じた。また、詳しい説明があると思うので聞くこと  
ができると思う。

【後藤紀一委員】

この議題を質問事項にするのか、協議事項として取り上げるのかはっきりしてほしい。

【佐々木次長】

進め方については、お諮りいただきお決めいただきたい。今回や4月25日だけで終  
わる話ではないと思うので、決め方も含めて今後ご協議いただきたい。

【佐藤忠治会長】

4月25日に行政改革推進課からどのような説明があるかにもよる。

【後藤紀一委員】

単なる報告事項で終わらせられると困る。

【佐藤忠治会長】

3月20日から、行政改革推進課が各地域協議会を説明に回るそうである。その時に  
どういう提案を、どのように取り扱うかを含めて協議をしたいと思います。

【内藤恒委員】

246もの事業名があるが、行政改革推進課が来てどの程度まで説明するのか。大潟  
区に関係のない項目まで説明するのか。

【佐々木次長】

資料に基づいて、全体的な考え方を含めて、その中で大潟区に関連する3事業につい  
ても説明させていただく予定である。

【佐藤忠治会長】

これについては、市議会にも提案されているのか。

【鍵田所長】

市の考え方を皆さんに知っていただきたいというものであり、提案等ではないが、報告をさせてもらっている。

【佐藤忠治会長】

具体的なことについては、次回にしたいと思う。配付資料を次回までに読み込んできてほしい。行政改革推進課から説明のときに意見を出してほしい。

【柳澤周治委員】

関連して、広報上越の発行回数を月2回から1回にすると記載があるが、新年度から実施するのか。

【佐々木次長】

違います。

【佐藤忠治会長】

この件については終了する。

次に、協議事項（1）自主的審議事項について協議する。前回、今後の自主的審議事項について、協議いただいた。「鵜の浜温泉の活性化」のほか、いくつかの項目について活発にご議論いただいたが、本日は再び、協議を行う機会とし、今後の方向性を決めていきたいと思う。それでは、事務局から説明してもらおう

【朝日班長】

配付資料に基づき説明。

【佐藤忠治会長】

自主的審議事項について、具体的に進めていくためにどのようにするか意見をだしてほしい。先回は、鵜の浜温泉の活性化について時間をかけて報告してもらった。喫緊の課題として、様々な団体と協議をして一定の方向性を出す必要があるのではないかとというのが大方の意見であった。

【後藤紀一委員】

先回の結論として、市の観光振興課から来てもらい話を聞くということであったが、その後、いろいろな人に聞くと観光協会や温泉組合の繋がりがうまくいっていない感じがする。直接、大潟区の観光協会や旅館組合から関係者に来ていただいて話を聞くことが必要であると思う。このまま放っておいていいとはだれも言わなかったと思うが。

【佐藤忠治会長】

私は、まず自主的審議事項として「鵜の浜温泉の活性化について」を決定し、それを市に挙げて、それから具体的に観光振興課から市の考えをお聞きし、どの程度地域協議会が関わるのか、関わるができるのかを煮詰めていけばいいと思う。

【内藤恒委員】

鵜の浜温泉の活性化については、今、手を打たないと衰退の一途をたどる。では、どのような方法がいいか。私は、市の観光振興課を中心に商工会、観光協会、鵜の浜温泉組合などの関係団体の会合をもって、進むべき道を協議しなければだめだと思う。地域協議会だけで論議しても始まる問題ではない。個々に問題が山積みされていると思う。

【佐藤忠治会長】

他に意見はないか。

【君波豊副会長】

オリンピック開催の前年であり、体操アリーナも間もなく完成するが、ホストタウンとしてすぐ近くの鵜の浜温泉が寂しい町になっているのは耐え難い。まず、大潟観光協会や、鵜の浜温泉組合が自分たちでなんとかする力があるのか我々は分からない。それをまとめている商工会もどのように考えているのか全く分からない状況である。一度そういう方々とざっくばらんに話をする機会があってもいいと思う。観光振興課とディスカッションしたらどうかという話もあったが、そういった面でフリーディスカッションをすることによって、ある程度、役割分担が見えてくるのではないか。我々が自主的審議事項として取り上げても、我々の力でどうにかなるものではないと思う。どこまでお手伝いができるかという立場で、関係者の率直な意見を聞きたいと思う。

また、内藤委員が言ったとおり、あまり時間がない。時間を費やしてしているうちにジリ貧になり、いよいよドイツからお客様が来るというときにお手あげですということになっては困る。中学生がもってきた資料をみたら、パラリンピックの柔道のドイツの選手が上越市に合宿に来るとあった。これからどんどん海外からのお客も来る。我々がどういったお手伝いができるのか考えておく必要があると思った。

#### 【金澤幸彦委員】

地域協議会としてどう関わっていくのかが、一番神経を使わなければいけないところだと思う。本来なら、鵜の浜温泉組合あるいは観光協会が自主的に「活性化をしていこう」と動いてくれば一番いいのだが、それがなかなか機能していない。地域協議会があまり前面に出ても余計なお世話だと言われる恐れもある。地域協議会が、残していかなければならない財産として、関わりを持ちながら前に進めていくのがよいのではないか。地引網にしても、鵜の浜温泉だけに任せてきたが、鵜の浜温泉の衰退に伴って地引網も駄目になってしまった。本来ならこの地域で残さなければならぬ地引網であった。地引網だけでも鵜の浜温泉に任せっきりでなく、関わっていく体制ができればという気持ちがある。

#### 【後藤紀一委員】

地域協議会としては、行政に対してどうするかということしかできない。経営について意見はできない。行政に対して要望事項をまとめるくらいしかできないと思う。実態を見ると、地引網を上下浜に持っていくにしても、漁業組合の関係者になんの相談もなかったと聞くと、その辺の繋がりがもっとあってもいいと思うし、観光協会あたりが仲立できなかったのかとの思いがある。その辺が行政との関わりになるのかということだと思うが。

#### 【柳澤周治委員】

基本的に地域協議会が関わる範囲としては、大潟区内全体の活性化対策として、例えばここが沈んでいるので本来あるべき姿に戻したらどうか。戻すためには行政はこういう支援が必要だ。当事者はこういう意思が必要だ。そういったものを見極める場をどこ

かで作っていくことは必要かもしれない。実際に行政が関わる時に、観光施策として例えば春日山城をメジャーな観光地として祭りなども含めて3000万円単位でつぎ込んでいる。そういった催し物を上越市が施策として、市唯一の温泉街を形成する大潟区に投資というか支援策ができるかどうか。これは、施策の問題であるから、こういったことができるかと行政に正していくのが地域協議会の役割として大事かと思う。しかし実際に当事者にその気がないのに、あるいは力が無いのに、当事者に求めても難しい部分がある。具体的には、閉館されているホテル、火が消えそうなホテルとかをそのままにしておいていいのか。改修をして誰かが入る為の段取りを地元が一生懸命やるという意気込みがあったら、行政は支援していくべきではないかという主張は出来るが、何もないのに壊して新しいものを造れとは言えない。また、そういった税金の使い方をしていいのかという議論が必ず出ると思う。どういう形で関わるかというのは非常に難しい。現メンバーの任期も1年しかない。今回、これを自主的審議事項にあげて1年以内に結論がでなければ、次年度の委員に引き継ぐことになる。次年度の委員が引き継いでくれるかは、次年度の委員が決める事である。だから、現委員がこの1年間でできる範囲のことの自主的審議事項に絞っていかないと難しい気がする。大事な問題ではあるが、自主的審議事項として取り上げて、なおかつ年度内に結論が出せるのは大潟区の魅力発見・発信の資料化ではないかと思う。私の意見としては、取り上げるなら大潟区の魅力発見・発信の資料化に絞ってはどうかと思う。ただ、鵜の浜温泉の活性化については、行政にも、当事者にも、商工会にも、観光協会にも目を向けてもらわなければならないという大きな課題がある。そういった連携があるから、課題を持ちつつも実際に作業をするのは次の委員に申し送りをするしかできないのではないかと思う。

#### 【新保正雄委員】

鵜の浜温泉組合が、自分たちでこの温泉を活性化していくという強い意志があるかを確認しないと駄目である。次に観光協会だが、今の観光協会があってもなくても何も変わらない観光協会である。三番目に商工会だが、ここにも真剣に取り組む意志があるかどうか。この3者の意思を確認しないことには、この議論はやっても無駄である。

### 【君波豊副会長】

先回の地域協議会では、観光振興課、温泉組合、観光協会、商工会の声を聞くという意見が多かった。連携されていないのであれば、我々が連携の手助けとして顔を合わせる場を作って意見調整をしたり、方向性を見出すくらいはできると思う。自主的審議事項にするかどうかはよく考えていかないと、我々の力ではどうにもできない場合もある問題であるので慎重に考えないといけない。

今日、議会の傍聴に行ったら市長が「我々、団塊の世代は右肩上がりの時代を過ごしてきた苦しい時のことを考えなかったが、今の若い人たちは苦しい中で育っているので、なかなか立ち上がってくれない。これから立ち上がってくれるのか。」という発言があった。大潟区でもこれだけ鶴の浜温泉が困っているとなったら、商工会の若い人たちなどが「よし、やってやろうじゃないか」という機運が出てくればいいが、なかなかそうならない。農協が実施している婚活イベントなども成果が出ていないような気がする。若い人の人口も減っているせいもある。地域協議会は、行政とのパイプ役くらいはできる。先ほど連携が取れていないという意見があったが、地域協議会が橋渡し役を行い、我々も中に入って意見を聞いて、場合によっては市に意見書を提出することもできると思う。

### 【内藤恒委員】

まずは、当事者がどのような危機感をもっているか。観光行政に明るい強いリーダーシップを持った人を先頭に、関係団体と何回も会議を重ねた上で方向性をどうするか。ここに係ると思う。ここで地域協議会の委員が意見を出し合っても、当事者ではない。観光振興課に投げかけて、市の考えを聞くのがいいのではないか。

### 【佐藤忠治会長】

他に意見はないか。前回も意見を言わせてもらったが、観光振興課から来てもらい、どのように現状を認識していて、どのような支援策を考えているかを伺う。また、当事者もどのように現状を認識しているのか話を聞く機会を設けて、地域協議会がどの程度動けるのかを見極める。まずは当事者の認識を把握しないと動けない。まずは自主的審議事項に決定して、行政と関係団体の話を聞くことにしても良いと思う。

### 【内藤恒委員】

私は平成25年に人魚館に勤めていた。その時、私が行くまで6年続けて赤字であった。地域協議会委員に社長、支配人、課長以上が呼ばれ事情を話した。私は、自分の持論を話した。ここでやるとすれば、関係団体を集めたなかで、鵜の浜温泉の活性化についての考えを聞く場に参加することぐらいである。まずは当事者が頑張らなければいけない。我々だけが頑張っても駄目である。

### 【金澤幸彦委員】

地域協議会としても、今の鵜の浜温泉をどうにかしていかなければという意識のもとで、観光振興課がこの現状をどう考えているのか、鵜の浜温泉組合の現状をきちんと認識してもらい、売りに出ているものは仕方ないが、そのまま売れなければ廃墟になるのか、誰か受けてくれる人はいないのか、市としても強力に支援してほしいというところから始めないと駄目だろう。

### 【中嶋浩委員】

何らかの形で思いは伝えたい。行政におんぶに抱っこでは地域協議会の活性化になっていない。聞くとか頼るではなくて、行政がこの実情をどのように捉えているかを観光協会や旅館組合に伝えて、当事者の意見を聞きたい。そういう場がまず欲しい。具体的に言うと、開府400年とか謙信公祭は市が関わっている。市にとっては大事なイベントである。では鵜の浜温泉はというと、程度の差があるかもしれないが、アリーナができて近くに温泉がある場所は少ない。しかも新幹線と直結している温泉は鵜の浜である。そのあたりを総合的に市はどう考えているかをお聞きする。それをふまえて話し合いを行い、対応策は次の段階で検討していくべきと思う。

以前は市の観光部門は、観光振興と観光企画で2つあったと思うが、今はどうなっているのか。

### 【鍵田所長】

今後名称が変わるが、観光振興課と施設を担当する課の2つがある。

【柳澤周治委員】

観光振興課に話を聞くのはいいが、大潟区として現地をどのように捉えているかという事になった時に、大潟区の地域協議会がきちんと問題を把握せず、観光振興課だけにどんな施策を持っているのかという話だけをしても無駄だと思う。

【佐藤忠治会長】

前回、現状について協議をした。

【柳澤周治委員】

それはここだけの話であり、地域協議会独自で現地で情報収集をしておかないとならない。観光協会や温泉組合など当事者の意向を確認しないといけない。地域協議会として市に話すだけでなく、現地で何が問題で、お客がどのくらい減っているのかなど確認が必要。旅館数が減っているのはわかるが、それが受入れ客に影響しているのかなどをある程度知っておかないとまずい。仮に観光振興課に聞いたとしても、観光振興5か年計画でこういう施策で進めていますくらいの話しかしないと思う。例えば、地引網の問題も地元の皆さん、旅館組合の皆さんがこういう風にやってくれと支援を求められれば考えますよというくらいだと思う。市の方からこれだけお金を出すから、柿崎にもっていかないで大潟でやりなさいという話になんて絶対にならない。何のために行政改革をやっているのかという理念がどこかに行ってしまう。現地がどういう努力をして、何に困っているのか、そこで困っていることに対して行政は施策上支援してもいいのではないかというもって行き方にしなければ行政は動かない。段取りの問題を詰めたほうがいい。

【君波豊副会長】

以前の地域協議会で、地引網の問題が出たときに柿崎区の職員が回答しており、情報は届いていると思う。

【柳澤周治委員】

それは、観光振興課は観光振興課として情報収集している。

【君波豊副会長】

私たちに調査権や調査能力は無い。鵜の浜温泉には市としても合併時に1億8,000万円ほどかけているし、その後も1億円ほど投入しており、かなり投資をしている経過もある。まったく鵜の浜温泉のことを考えていないわけではないと思う。

【柳澤周治委員】

考えてはいない。温泉掘削の時も陳情を出している。地元の意思を汲んでくれという形であり、施策ではない。

【君波豊副会長】

市としてどういう考えか聞くことはいいのではないか。現状の把握として。

【柳澤周治委員】

それはいいが、その前に地域協議会が地元の問題の情報も集めないで市に聞いたって何になるのかという事である。地元において、年間利用者の集約もできていない。他人事のようになってしまう。

【君波豊副会長】

逆に市の観光担当がそういう把握をしているのではないか。そういう場で市から教えてもらうことは可能なのではないか。

【柳澤周治委員】

この問題は自主的審議事項にするかどうかを協議しているわけだから教えてもらうだけでなく、動かなければだめだ。

【君波豊副会長】

私は自主的審議事項にするのは早いと思う。

【柳澤周治委員】

それは副会長個人の考えであって、それを決めるために今協議している。やるのであれば地域協議会としても情報収集が必要である。

【内藤恒委員】

柳澤委員の言うとおりで。現状認識をしたうえで動かなければならない。

【後藤紀一委員】

観光協会は、入込客数等を掴んでいるのか。

【柳澤周治委員】

それは掴んでいるはずである。行政が数字をまとめるときには観光協会に聞くはずだ。

【鍵田所長】

数字の話が出たが、旅館の皆さん、観光協会から海水浴客の入込数や宿泊数、利用者数の報告を受けており、数字自体は市でデータとして持っている。提供することは可能である。

【後藤紀一委員】

それであれば数字は市の方が正確なものを持っている。

【柳澤周治委員】

数字は一例である。実際に話を聞いてみなければ、どういう苦悩があるかわからない。我々が、鵜の浜温泉の火が消えて大変だと言ったって、実際、旅館の経営者の皆さんはそう思っていないかもしれない。そういったところは情報収集できるのではないか。最初から公の場に呼んで話をしなくても、非公式でこちらから出掛けて行って話を聞かせてもらうことはできると思う。

【佐藤忠治会長】

具体的に情報収集をするため会長、副会長が出掛けていくのか。それとも検討委員会のようなものを作ってやるのか。

【柳澤周治委員】

私の意見としては、今年度この問題を取り上げない方がいいというのが大前提である。。やるとすれば、そういう問題をクリアしていかないと時間的に難しい。

【佐藤忠治会長】

今回は取り上げることになった。

【柳澤周治委員】

決まったのか。決まったのであればどうやるかである。先回欠席していたので申し訳

ない。

【君波豊副会長】

意見はいろいろ出たが、決定したわけではない。

【佐藤忠治会長】

決定したという方向で異論はなかった。

【新保正雄委員】

関係者に来てもらって、雑談の中から話を聞いていけばいいのではないか。

【佐藤忠治会長】

我々が出掛けて行ってからここで協議したほうがいいのではないか。温泉組合と観光協会と商工会がある。

【君波豊副会長】

温泉組合と観光協会の長は同じ人になった。

【小山茂委員】

先ほど柳澤委員が言ったように、この問題を今年度取り組むのは困難である。自分たちの力で最後の集約ができない。リサーチの問題は、個別に訪問して他の目が気にならない方がいい。寄り添った対応をすることで本音の意見を聞けると思う。

【佐藤忠治会長】

もう一度元に戻るが、先回「鵜の浜温泉の活性化」、「大瀧区の魅力発見・発信の資料化」、「文化財や史跡、観光案内等看板の整備」の3つが上がった。一番時間を割いたのが鵜の浜温泉の問題であった。今回具体的に自主的審議事項についてどうするか協議となった。「鵜の浜温泉の活性化」について取り組むか、次年度に送るか決めてほしい。

【柳澤周治委員】

決を採ってください。

【佐藤忠治会長】

では、決を採る。「鵜の浜温泉の活性化」を自主的審議事項とすることに賛成の人は挙手を願う。

(多数決を採る)

賛成7人、反対6人で「鵜の浜温泉の活性化」を自主的審議事項とすることに決定する。具体的にどのように動くかは次回以降決定する。

【中嶋浩委員】

大事な問題であるので、聞き取り等は会長、副会長で行ってもらった方がいい。いろいろなことを踏まえて、実情を聞くとともに、どうしていくのか建設的な意見や思いがなければならない。そうなる立場上、会長と副会長から行ってもらった方がいいと思う。

【君波豊副会長】

それでもいいが、皆さんにも各々の立場で情報収集をしてほしい。危惧するのは我々2人が行くと固い話になってしまわないかということだ。

【金澤幸彦委員】

実態を調べて、途中で断念せざるをえないこともあると思う。

【佐藤忠治会長】

それはあると思う。そこも含めて自主的審議事項としていきたい。

【金澤幸彦委員】

鵜の浜温泉は後継者がいないのが問題である。価値があるうちに売りたいというのが本音であると思う。そこまで地域協議会は入っていけないと思うし、途中で断念となることもある。

【中嶋浩委員】

1か月ほど前のタイムスに、うみがたりのオープンや新幹線の効果で鵜の浜温泉が潤っているとなっていた。我々は悲壮感が漂っていると思っているが、当事者はそうではないのかもしれない。

【佐藤忠治会長】

具体的には総合事務所と相談しながら、助言を受けて関係団体に打診をして、どのように進めるか決めていきたい。

「大潟区の魅力発見・発信の資料化」、「文化財や史跡、観光案内等看板の整備」につ

いてどうするか意見をだしてほしい。

**【朝日班長】**

「大潟区の魅力発見・発信の資料化」、「文化財や史跡、観光案内等看板の整備」について先回話がでていたが、取り組むか決定したわけではない。どうするかをお決めいただきたい。

確認であるが、「鶴の浜温泉の活性化」を自主的審議事項とすることに決定するということであったが、皆さんが鶴の浜の実態を把握する前に自治・地域振興課に報告していいのか。実態を把握したうえで自主的審議事項として報告するのか。

**【佐藤忠治会長】**

今、賛否を取って自主的審議事項に決定したのだから、報告していい。

**【君波豊副会長】**

金澤委員から「途中で断念ということもある。」という発言もあった。報告をしてしまうとそれに基づいて進んでいかなければならない。今、我々は何のデータも持っていないのだから、前段として実態把握をして、見極めてからの方がいいのではないか。方向としては決定しようとなったが、先行き不透明なところがある。

**【佐藤忠治会長】**

決定のもと実態把握をするのでなければいけない。

**【君波豊副会長】**

その場合、自主的審議事項として報告して、実態を確認したら取り組めなかったということもあるのか。

**【佐藤忠治会長】**

ありうることである。

**【朝日班長】**

では、次回に通知票の様式を作成して皆さんに提案する。承認を得て届出をする形となる。「大潟区の魅力発見・発信の資料化」、「文化財や史跡、観光案内等看板の整備」は別件である。

【後藤紀一委員】

「大潟区の魅力発見・発信の資料化」はあらためて自主的審議事項にしなくてもいいと思う。

【柳澤周治委員】

「鵜の浜温泉の活性化について」と「大潟区の魅力発見・発信の資料化」を同時進行で行うのか。

【佐藤忠治会長】

そうである。「大潟区の魅力発見・発信の資料化」は具体的にどのように進めるか協議できなかったが、次回にでも他団体に依頼するか、地域協議会委員で取り組むか意見を出してほしいと思う。「文化財や史跡、観光案内等看板の整備」については、個人的に地域活動支援事業を利用し取り組んでもらえないか住民団体に打診している。皆さんからも地域活動支援事業にそういった問題を取り上げてほしいと言ってもらいたいと思う。ただ、「文化財や史跡、観光案内等看板の整備」は行政の責任であり、行政で取り組むべきという意見があれば、意見書を提出すればいいわけである。これらは、次回以降に取り上げて協議していきたいと思う。よろしいか。

【柳澤周治委員】

同時進行できるのか。かなりの時間が必要だと思うが。

【佐藤忠治会長】

具体的には、郷土史友の会の皆さんに地域活動支援事業を利用して瑞天寺の案内看板の再建に取り組んでもらえないかお願いしている。

【柳澤周治委員】

瑞天寺の案内看板については、大潟町時代からのもので老朽化により撤去された。瑞天寺は新たに設置したいと考えている。その場合、市から補助がでる。瑞天寺が市の補助を受けて、取り組むと聞いている。

【佐藤忠治会長】

いつの話か。

【柳澤周治委員】

昨年である。ひとつ問題なのは、今の行政の基準だとお寺など宗教に関係するものは地域活動支援事業としてはやらないのではないか。

【後藤紀一委員】

政教分離でそういった見解がでたように思う。文化財ということならいいと思うが。

【柳澤周治委員】

そこはきちんと確認したほうがいい。

【君波豊副会長】

地域活動支援事業が始まった直後に、まちづくり大潟が文化財指定の看板の修繕の提案をしようとしていたが、教育関係の管轄であり、そちらで対応することになった経過があったと思う。

【柳澤周治委員】

最近では政教分離でシビアな基準がある。瑞天寺としては地域活動支援事業でなくても、他の補助金を受けながら自分たちで取り組む意向が強いと聞いている。檀家もそれで了解したとも聞いている。

同時進行でやるのはいいが、大潟区の魅力発見・発信事業は現在、PR版のDVDを作成しているが、併せて、そこに載せられなかった資料を含め、総合文化財の保存版として作成するのがいいと思う。私はこちらを優先するべきだと思っていた。鶯の浜温泉の活性化と並行してやっていくには、相当の回数をやっていかないと難しい。地域活動支援事業の審査後に、月に2回でも3回でもやっていくという覚悟を持ってもらわないと駄目だと思う。それでもよければ同時進行でやってもらってもいいが、どう思うか。

【佐藤忠治会長】

どの程度のものを作るかによる。以前、総合事務所で整理してもらったものを配った。

【柳澤周治委員】

あの中から整理していこうというのであればそんなに時間は取らないが。

【後藤紀一委員】

予算の伴わない事業とするのか。

【君波豊副会長】

伴うであろう。

【後藤紀一委員】

その場合、予算はどこから出るのか。地域活動支援事業を使うのであれば遅すぎる感じがする。

【君波豊副会長】

昔、公民館で作ったものをここに持ってきた。当初、こういった形のA4判の資料を作ろうという発想だったと思う。50何項目上がってきているが、写真を撮ったり、説明文を作成したりすると大変な作業になると思う。やるのであれば、この公民館で作ったような形にしていくのがいいと思う。

【柳澤周治委員】

私は、次世代につなげるために大事なことだと思う。総合資料だと思う。

【君波豊副会長】

DVDもまだ完成していないので、そちらもやらなければいけない。

【佐藤忠治会長】

個人的には、資料は総合事務所が作成した一覧表程度でいいと思う。いろいろな項目については、こういう資料があるというのがわかればいい。

【柳澤周治委員】

それは、一覧表だけでは資料づくりにはならない。

【佐藤忠治会長】

まず、一覧表を決定版として残して、それを基にして冊子を作成するかどうかを決めればいいのか。

【柳澤周治委員】

その一覧表をどのように活用するのか。

【佐藤忠治会長】

こういった本に記載されていますよといった資料として活用すればいいのでは。

【柳澤周治委員】

案内文書ではないか。それでは資料にならない。

【佐藤忠治会長】

あれでも十分な資料だと思う。

【柳澤周治委員】

そこは見解の違いがあると思うが、それであれば自主的審議事項としてわざわざ上げなくてもいいのではないか。

【佐藤忠治会長】

これは私の意見であり、君波副会長のように冊子を作成したほうが良いという意見もある。

【柳澤周治委員】

資料として整理するのであれば、きちんと製本化して次世代に繋げていくのが良いと思う。

【佐藤忠治会長】

そうするとDVDと同じように、他団体に事業実施をお願いする必要がある。

【柳澤周治委員】

それにしても、地域協議会としてある程度の集約をしてお願いするのであればいいが、すべてを丸投げするのでは相手も嫌だと言う。

【佐藤忠治会長】

冊子を作成するのは大変なことである。

【柳澤周治委員】

大変なことだから、2つ同時に取り組めるのかと聞いている。

【佐藤忠治会長】

だから、私は簡単な一覧表が良いと思う。

【柳澤周治委員】

それは資料ではない。それであればここに上げなくてもできる範囲のものである。

【中嶋浩委員】

DVD作成の過程のなかで、資料化が重要であると必然的に生まれてくるだろうと捉えていた。資料については、一覧表だけならあっても無くてもよい。資料は、改めてまとめて冊子として作成すべきだと思う。今はDVDに重点を置いて、資料化に取り組むのは次回だと考える。新たな取り組みをしないといい資料はできない。

【佐藤忠治会長】

いろいろな意見が出たが、次回決定していきたいと思う。自主的審議事項についてはこれで終わりたいと思う。

続いてその他に移る。私から、柿崎区地域協議会の活動状況について報告する。

(配付資料に基づき報告)

次に、大瀧かっぱ祭り実行委員会から平成31年度及び32年度の地域協議会からの委員選出依頼があったので、本日、2名を選出したいと思うがいかがか。現在は、君波副会長と山本委員に務めていただいております、再度、君波副会長と山本委員にお願いするという事によろしいか。

(一同了承)

では地域協議会からは、君波副会長と山本委員を選出する。

次に、総合事務所から連絡事項はあるか。

【鍵田所長】

(大瀧区総合事務所職員の人事異動について、配付資料に基づき説明)

【佐藤忠治会長】

委員からなにかあるか。

【柳澤周治委員】

地引網の件はDVD作成にも関係してくるが、その後の状況について把握されていれば教えてほしい。

**【鍵田所長】**

地引網については先日、新聞報道があった。ロイヤルホテル小林、鵜の浜ニューホテル、みはらし、日本海、柿崎区のマリンホテルはまなすが上下浜海岸で実施するとのことである。とりあえずは5月の連休のうちの4日間実施することが決まっている。その後は、連休の状況を見て決めていくと聞いている。

**【柳澤周治委員】**

そこに「みかく」の名前が無かったが、入っていないのか。みかくは観光協会の組合長であると思うが。

**【鍵田所長】**

みかくは入っていない。

**【柳澤周治委員】**

観光協会の組合長が入っていないのに、我々が心配しなければならないのかと腑に落ちない。

**【鍵田所長】**

補足であるが、旅館組合の皆さんの意見が4対4で割れている。柿崎区で地引網を継続して行こうという方と、鵜の浜で実施しなければ意味がないと考えておられる方とで分かれている。

**【柳澤周治委員】**

鵜の浜で実施ができるのであれば、賛同される方がほとんどなのか。

**【鍵田所長】**

皆さん、そういうお気持ちである。

**【佐藤忠治会長】**

ほかに無ければ今後の日程について事務局から説明する。

**【佐々木次長】**

次回の第1回大潟区地域協議会は4月25日（木）午後6時30分から開催する。

【君波豊副会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail : ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。